

# 岩国駅前南地区にぎわい創出施設の導入機能について

## 1. 導入機能検討の背景

本市では、にぎわいある都心拠点の形成を図るため、平成 26 年に「岩国市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、その後、令和 2 年 2 月に「第 2 期岩国市中心市街地活性化基本計画」を策定し、計画の基本方針に沿った事業を長期的な視点に立ち継続して、官民一体となって推進しながら、中心市街地のまちづくりに取り組んでいます。

その中心市街地で拠点となる岩国駅前周辺エリアでは、民間主導によるまちづくりが活性化しており、西口駅前広場に面する地区において、令和 9 年度完成を目指し岩国駅前南地区市街地再開発準備組合による再開発ビルが計画され、商業、業務、住宅などを配する中心市街地のにぎわい創出へ向けた新たな拠点施設として検討されています。

一方、中心市街地では中央図書館麻里布分室の入る福祉会館が、耐震性の欠如や老朽化などから施設の再編を検討されており、地元からは再開発ビル内に図書館機能を核とした施設の整備を要望されているところです。

そこで、市においても、再開発ビル内に、まち全体の集客力を高め、まちのポテンシャルを向上させる「図書館機能を核としたにぎわい創出施設」を一体的に整備することで、中心市街地のにぎわい創出をより効果的に図っていくこととしました。

このにぎわい創出施設の整備に向け、まずは施設の基本となる図書館機能をはじめとした、中心市街地のにぎわいや交流を創出するための導入機能について検討を行います。

## 2. 岩国駅前南地区市街地再開発事業施設建築物の概要（予定）

- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| ◦事業名：岩国駅前南地区第一種市街地再開発事業         | ◦施行者：岩国駅前南地区市街地再開発組合（予定）       |
| ◦構造・規模：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・地上 20 階建 | ◦延べ床面積：約 35,800 m <sup>2</sup> |
| ◦主要用途：商業施設、業務施設、公益施設、共同住宅、駐車場   | ※数字は計画案時点のもの                   |

## 3. 関連計画

### 第 2 次岩国市総合計画

- 子育て支援の充実
- 健康づくりの推進  
⇒市民が自主的に健康づくりの活動に取り組む機会の提供
- 中心市街地の再生  
⇒官民それぞれの役割分担を踏まえながら連携
- 「生涯学習のまち」を目指す  
⇒いつでもどこでも学習できる機会や場の充実
- 生涯スポーツ社会  
⇒いつでも、どこでも、誰もが、いつまでも気軽にスポーツができる

### 第 2 次岩国市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 未来へつながる交流都市岩国～若い世代に選ばれるまち～
- 観光交流を中心に、文化・スポーツによる交流も含めた「交流」をより活性化することで、住み続けたい、住んでみたいと思う、魅力あるまちをつくり、現在を未来へとつないでいく
  - 将来にわたり、まちの活力を維持していくためには、次代を担う若い世代の存在が不可欠
  - 若い世代に選ばれ、暮らし続けることができるまちづくりに取り組み、人口減少問題を克服することを目指す

### 山口県都市計画区域マスタープラン

- 麻里布地区⇒商業・業務、文化、情報等、高次都市機能の集積
- 中心市街地⇒にぎわいと活気のあるまちづくり

### 岩国市都市計画マスタープラン

- 岩国駅を中心とする市街地中心部  
⇒商業・業務機能や公共公益施設、共同住宅等が集積する都市拠点の形成
- 麻里布・川下地域の岩国駅を中心とする市街地  
⇒多様な都市機能の集積、多くの人でにぎわう魅力ある岩国市の中心にふさわしい都市拠点の形成

### 第 2 期岩国市中心市街地活性化基本計画

- 【基本テーマ】  
『みんなが考え、みんなで進める、みんなに優しいまちづくり』
- 基本方針 1：多様な主体による「能動的な」まちづくり  
基本方針 2：まちなか再生と事業継続による「持続的な」まちづくり  
基本方針 3：多世代・多文化交流と高質な住環境による「快適な」まちづくり
- 目標 1 - 「魅力と個性あふれる持続可能な商業空間の創出」  
・魅力的な中心市街地の形成  
・「地域参加型のまちづくり」の推進  
・遊休不動産の利活用や適材適所の店舗誘致の推進  
・拠点施設の整備や開発と合わせ、リノベーションなどによる新陳代謝、機能や価値の再生を図る  
・創業支援や事業安定、事業展開支援を行い魅力的な店舗の増加と持続
- 目標 2 - 「多くの人が集まり、楽しめ、暮らせる快適な生活空間の創出」  
・多くの人がにぎわいづくりに参加でき、快適に過ごせる中心市街地の形成  
・まちなかの情報を多様な人々に発信し、まちの集客と回遊の促進  
・多様な人々に対して、様々な交流ができる場や機会を与え、コミュニティづくりを推進

### 岩国市立地適正化計画

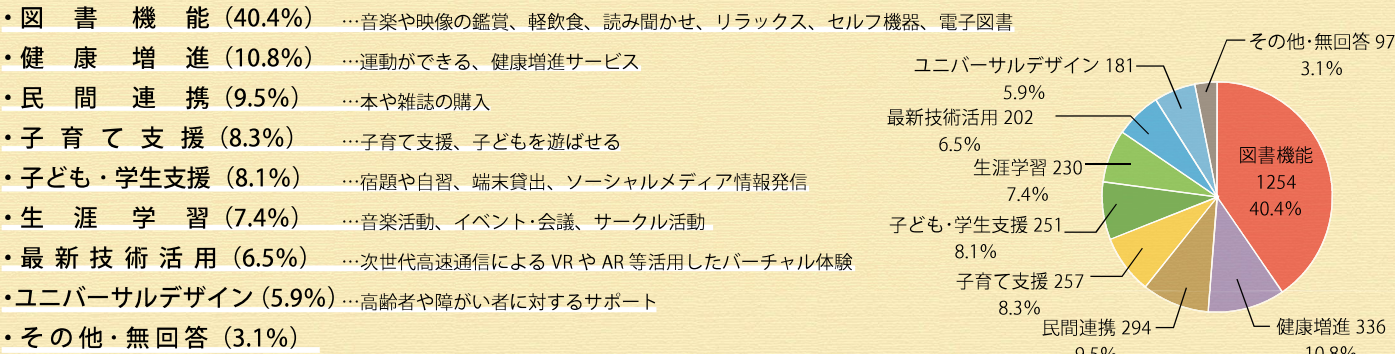
- 区分：都市機能誘導区域（中心拠点型）  
誘導施設（公共施設）：市役所、保健センター、図書館、文化ホール  
（民間施設）：病院、1,000 m<sup>2</sup>以上の商業施設  
誘導施策：中心市街地活性化の推進  
⇒にぎわいと魅力のある商環境、街なかの快適な住環境  
民間事業者のまちづくり活動の支援  
⇒市街地再開発事業に対して、事業者との連携や支援

### 岩国駅周辺地区グランドデザイン（㈱街づくり岩国策定）

- 核プロジェクト⇒文化・娯楽機能…岩国著名人などの活用  
教育機能…図書館やラーニングコモンズ等の学びの場  
交流機能…多世代交流や異文化交流の拠点  
健康増進機能…安心して健康増進に励める場
- みんながまちづくりに参加できる場 ⇒ 『岩国くらす』  
〈場づくり例〉”来楽す”：街のコミュニティに参加したい子どもたち

## 4. 意向の把握（市民アンケート調査：令和 3 年 2 月実施）

市民アンケート（無作為に抽出した市民 1,500 人に郵送、670 人回答 44.6%）  
「図書館機能を核としたにぎわい創出施設」に期待する機能（複数回答）について



## 5. 中心市街地のまちづくりにおけるキーワードから求められる施設像



6. 施設整備の基本理念

基本理念

みんながつながる タマリバ空間

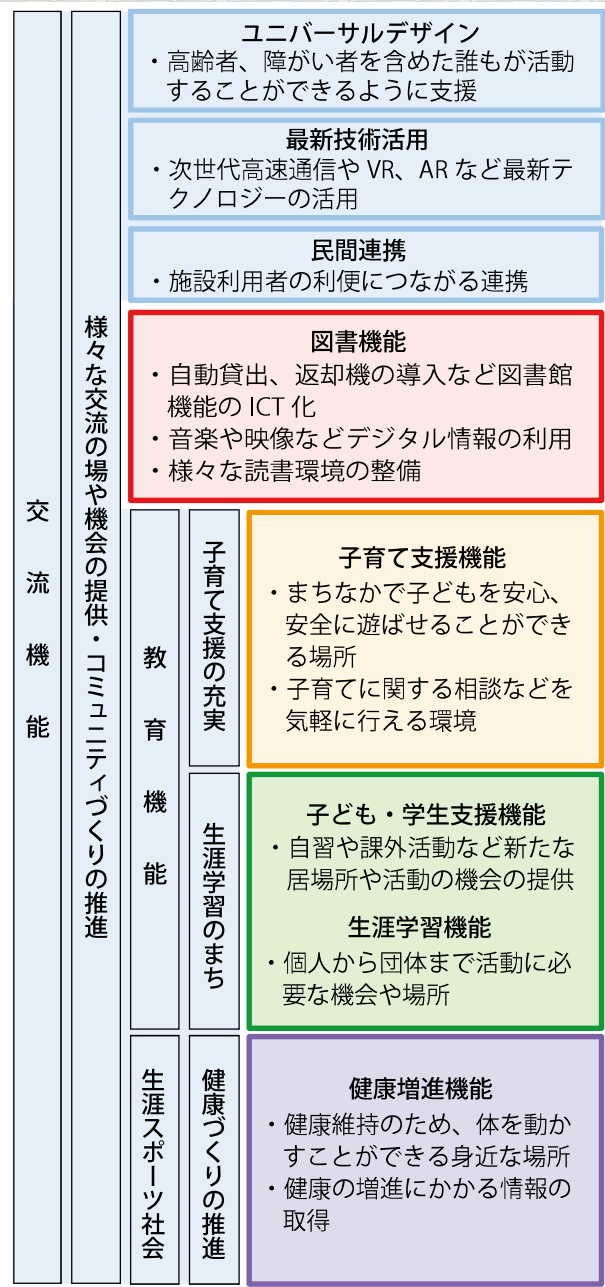
未来へと続くにぎわいと活力の創出には、“みんな”がまちとつながり、特に若い世代がイベントや社会学習に参加することで、まちの魅力を発見し、まちへの愛着を育んでいくことが重要であると考えます。

また、このにぎわいと活力が、岩国のセントラルコートである中心市街地から周辺地域に循環していくことにより、岩国全体の活性化へとつながっていくことも期待されます。

そのため、にぎわい創出施設は、若い世代を始めとした“みんな”が、いつでも気軽に寄り集まり、読書、子育て、学びや体験、運動などを通じてつながることができる、まちなかの“タマリバ”のような施設とします。

7. 核となる図書館機能と連携する導入機能

〈意向の把握〉



8. 各導入機能の方針

にぎわい創出施設の方針

- まちなかで誰もが集い活動できる場所やくつろげる場所を設け、交流によるにぎわいの創出を図る
- 人が集い活動するのに有用な情報提供の効率化や、活動における学び、関心、体験に最新の通信・デジタル技術を活用し、にぎわいにつなげていく
- 複合施設の特徴を活かした民間との連携を図り、にぎわいにつながる施設機能の幅を広げる

まちなかライブラリー機能の方針

- 中心市街地の居住者や滞在者、駅利用者など、地域に関連する人々と岩国市図書館ネットワークをつなぐ図書館として機能する
- 知の情報拠点として、にぎわい創出施設を構成する各機能に情報提供を行い、様々な活動を支援する

まちなかグロウアップ機能の方針

- 体験や知に触れる機会、場を設け、子どもの健全な育成支援と子ども同士や親同士の交流が図れる環境を提供する
- 地域の子育て世代のサポートとして、身近な支援サービスを展開し、子育て世代の暮らしやすさ、定住意識の向上を図る

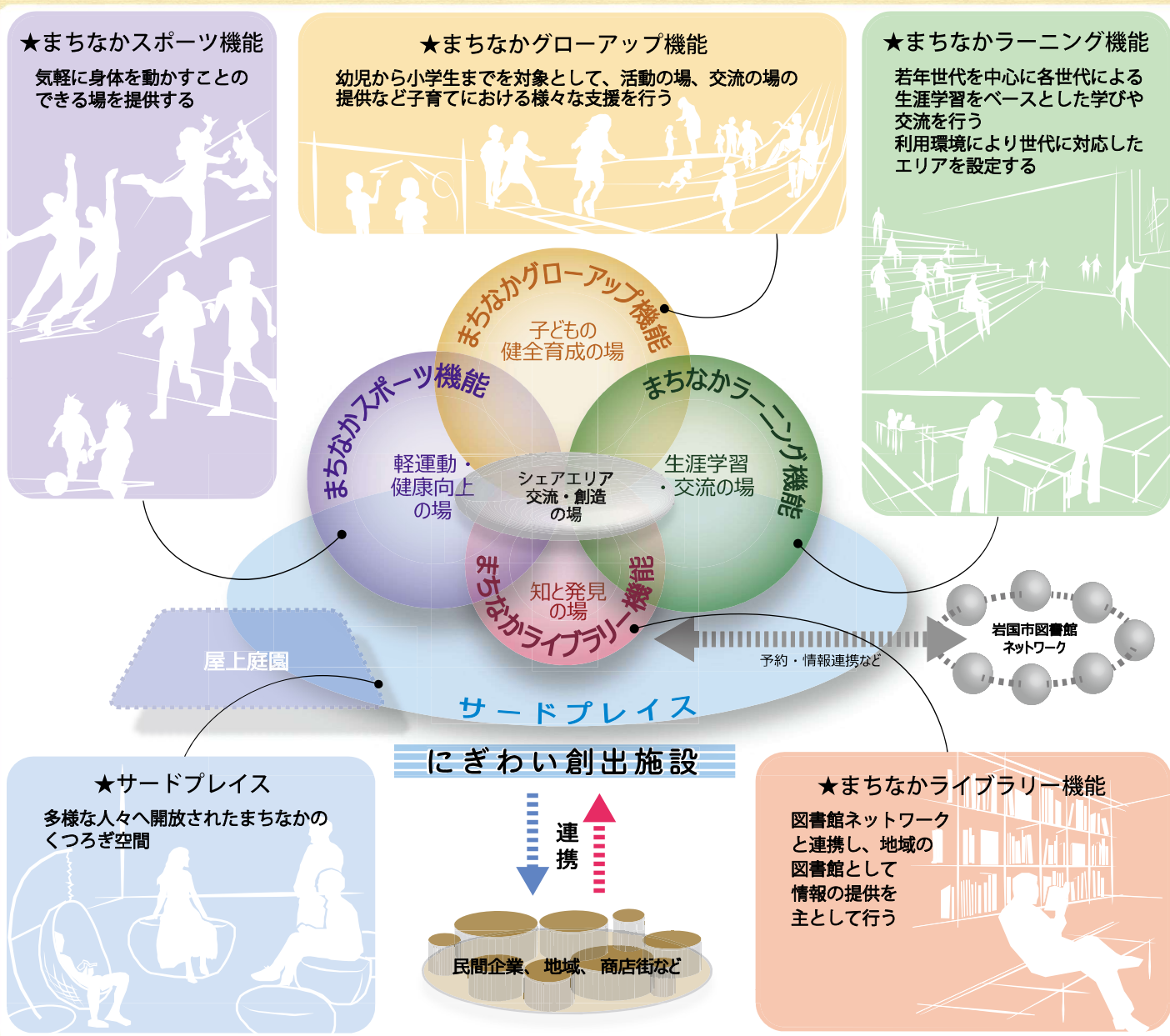
まちなかラーニング機能の方針

- 図書館機能と連携し、世代に合ったエリアを設け、学習や交流による居場所を提供するとともに、様々な協働活動により世代間や領域の垣根を超えた横断的な交流を図る
- 若年世代を中心とした学びや体験といった学習の機会と場を提供することにより、若い世代のまちなかでの定着化を図る

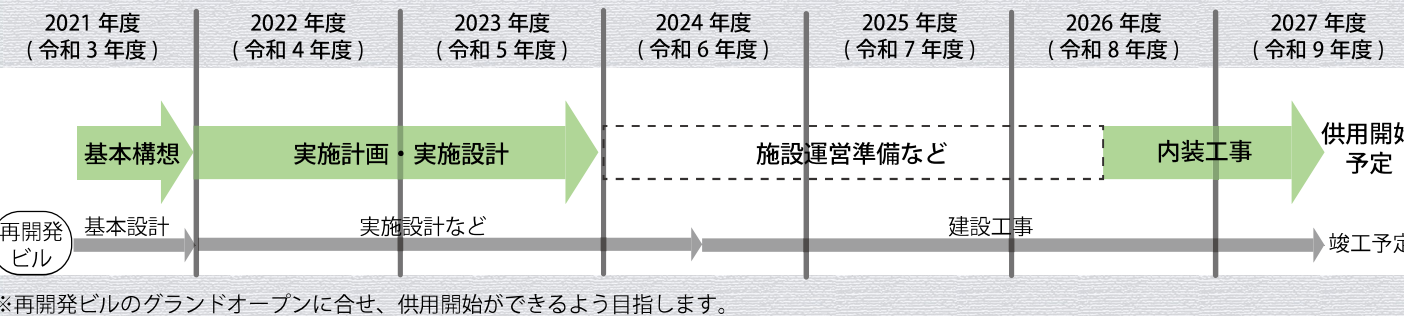
まちなかスポーツ機能の方針

- まちなかでできる軽運動など気軽に身体を動かすことの出来る場を提供し、体と心の健康をサポートする
- 積極的に新しいスポーツや健康情報提供など各機能と連携して行い、施設利用者の健康の質の向上に努める

9. 施設の導入機能イメージ



10. 整備スケジュール案



11. お問い合わせ

岩国市 都市開発部 中心市街地整備課 まちなかデザイン班  
Tel 0827-29-5171 Fax 0827-24-4207  
E-mail : chushin@city.iwakuni.lg.jp